

第7回コンクール大賞審査委員特別賞の選考について

「わが村は美しく一北海道」運動が目指す姿とは、世代を繋いで営まれてきた農林水産業の健全な生産活動によってもたらされる「景観」、「地域特産物」、「人の交流」という3つの要素が、相互に関連し合いながら全体として調和を保ち、一体化して地域住民の生活に溶け込んでいくような「豊かさ」が醸し出す美しい農山漁村である。

この観点から第7回コンクール大賞審査において、優秀賞14団体の中から先導性、モデル性の高い活動内容を含む3団体を大賞として選考したところである。

近年、北海道の農山漁村においては過疎化や少子高齢化が進んでおり、地域が理想としている活動の継続が危惧されている。このことから、特に地域で活動する「人」という観点に着目し、全道の地域の魅力を高めようと活動している団体の道標として、今後とも継続した活動を期待する2団体について、第7回コンクール大賞審査委員が表彰する「第7回コンクール大賞審査委員特別賞」を、以下のように選考するものとした。

審査委員特別賞 団体名：北海道倶知安農業高等学校（倶知安町）

高校生のフレッシュな感覚による発想力を町内外の関係機関と協力して具体化し、地域の活性化に貢献している「北海道倶知安農業高等学校」

北海道倶知安農業高等学校では、倶知安町の特産品であるじゃがいもの約15%の規格外品を使用して商品開発を行っている。平成16年にペースト状にした「ポテトペースト」を地元企業と共同で開発し特許を取得、以来「ぼてぷりん」などを商品化して地元菓子店が販売し現在に至っている。

平成25年からはこの「ポテトペースト」をさらに活用・普及させるため、企業・デザイナー・菓子店などが協働し、リサーチ・デザイン・試作改良を積み重ね、本格的な商品開発に取り組み、添加物を一切使用しない安全安心なスポーツバー「NISEKO MONTE BAR」を完成させ、町内外で発売している。

商品を販売する企業も立ち上がり、新たな雇用も生まれ、町内外26店舗で発売されるようになった。

このほか、規格外じゃがいものを細かくスライスし、牧草に混ぜ合わせ発酵させた「ポテトサイレージ」による牛の飼育や、牛の皮を活用して、野球グローブを作るなど循環型農業にも取り組んでいる。

こうした将来の農山漁村を担う高校生が、フレッシュな感覚による発想力で町内外の関係機関と協力し具体化した取組は、高く評価できる。

今後とも、一過性の学習に留まることなく、先輩が開発した商品（ポテトペースト）を活用しながら地元産業クラスターとの連携による商品開発を継続し発展させるとともに、地域活性化への貢献を期待したい。

審査委員特別賞 団体名：農村生活文化伝承活動をすすめる会（豊富町）

地元の農村文化を伝承する活動を長年に渡り地道に継続するとともに世代間交流を行い、高齢者の役割向上と地域活性化を果たし、農山漁村の高齢化社会の手本となる取組を進めている「農村生活文化伝承活動をすすめる会」

本団体の活動地域は、豊富町で酪農を中心とした農村地域である。

昭和60年から昔ながらの農村の文化の良いところを広く伝える事を目的に農産物や手工芸品などを展示する「農村生活文化伝承展」を開始した。

平成4年にはイタドリの加工に着手したことを契機に「農村生活文化伝承展」のメンバーでもあった酪農家の女性達が、自分たちの生きがいと農家の知恵を後に続く世代へと繋げていくために、団体を設立し今日に至っている。

発足以来20年以上もの長きにわたる地道な活動（漬物講習会、牛乳料理実演、地元産の伝統加工食品の普及など）を通して地域住民と交流を重ねてきたことにより、町民の間には信頼感、期待度が浸透し、メンバーの「生きがい」にもなっており、今後も継続性が認められる。

また、一般消費者に農村の魅力を伝えるため、牛乳料理や漬物作りの実演・販売を通じて食文化の発信や消費者交流にも積極的に取り組み、農業理解を深めてもらう役割や地域の活性化にも大きく貢献している。

女性の世代間交流として地域に根付いた息の長い地道な活動を展開し、食育活動の推進と発展においても牽引的な役割を担っており、モデルとして他地域への広がりも十分期待できる。

このことから、地元の農村文化の伝承を通じて、世代間交流を行い、高齢者の役割向上と地域活性化を果たし、農山漁村の高齢化社会の手本となる取組を進めていることについて高く評価したい。